

<カタログのメモ>

## NDC新訂10版に照応した、関係テキスト内の部分修正一試案

志保田務

中村恵信

山田美雪

石井莉乃

園田俊介

### まえがき

『日本十進分類法』(以下、NDC)新訂10版が周知のように、日本図書館協会(JLA)から発行されている(2014年12月25日付)。NDCは図書館法施行規則第1条(2009年4月30日)上に示された「文部科学省令で定める図書館に関する科目」(図書館法5条1号)内甲群科目中の「情報資源組織演習」に関連する主要マニュアルの一つであり、同科目の概論科目にあたる「情報資源組織論」の授業のテキストにおいてもそれに触れざるを得ず、同分類法の改訂は、それらの授業に影響するだろう。具体的に言えば、これらの科目を開設する各授業場で、NDC10版の受講者数分の購入が必要となろう。もっとも、購入が進まないケースがある。また、購入がなっても、10版に生じた改訂の反映は、関係テキストに必要である。しかしテキストの改版に出版者が迅速に対応することは、期待できない。こうした苦境を凌ぐ手立てはないかと、Web上の対処法を考え、本誌誌面を借り、関係テキストの該当部分に相当する表を提供し、上記に代わる代替の便宜を図ろうとする。

これが小稿の抱いた意図である。対象の「関係テキスト」は、2009年4月30日施行文部科学省令「図書館に関する科目」以後のもの、さらに本稿の著者の一人、志保田務が中心の著書に限定した。理由は著作権侵害を避けるためである。ただし、図書館法関係に限定しないで、学校図書館司書教諭のテキストも含んだ。

以上の限界から、この発表<メモ>には、他の著作使用の読者に役立つとは思えないが、万一にも転用、ご活用頂けるならば、当Web誌に恵存の謝辞をささげたいと思う。

関係テキスト(各書冒頭の記号は、区別のための便宜的な略号である)

**B** 分類・目録法入門 : メディアの構成 / 木原道夫, 志保田務著. — 新改訂第5版 / 志保田務[ほか]改訂. — 東京 : 第一法規, 2007

- G 学校教育と図書館 : 司書教諭科目のねらい・内容とその解説 / 志保田務  
北克一, 山本順一編著. — 東京 : 第一法規, 2007
- H 情報資源組織法 : 資料組織法・改 / 志保田務, 高鷲忠美編著 ; 平井尊士  
共著. — 東京 : 第一法規, 2012
- R 情報資源組織論 : よりよい情報アクセスを支える技とシステム / 志保田務  
編著. — 東京 : ミネルヴァ書房, 2014
- Z 情報資源組織法演習問題集 / 志保田務, 高鷲忠美編著. — 東京 : 第  
一法規, 2013

\*略号のもとに付した数字は各書におけるその記事の該当頁, 括弧内はその章項である.

## 目次

1. 本文内表現, 本表及びその抽出例に関する変更
2. 補助表, 分類規程に関する変更
3. 『10版』の使用法 : NDC の一般的な適用 = 分類作業 <抄>
4. 索引及びその抽出例に関する変更

## むすび

### 1. 本文内表現, 本表及びその抽出例に関する変更

1.1 第一次区分表 (類目表) **赤字**は10版での新表示. **G116 (2.3.6)** **H190 (VII 3**

(1)

#### 0 総記 (General works)

(**情報学**, 図書館, 図書, 百科事典, 一般論文集, 逐次刊行物, 団体, ジャーナリズム, 叢書)

1 哲学 (Philosophy) (哲学, 心理学, 倫理学, 宗教)

2 歴史 (History) (歴史, 伝記, 地理)

3 社会科学 (Social sciences) (政治, 法律, 経済, 統計, 社会, 教育, 風俗習慣, 国防)

4 自然科学 (Natural science) (数学, 理学, 医学)

5 技術 (Technology) (工学, 工業, 家政学)

6 産業 (Industry) (農林水産業, 商業, 運輸, 通信)

7 芸術 (The art) (美術, 音楽, 演劇, スポーツ, 諸芸, 娯楽)

8 言語 (Language)

9 文学 (Literature)

1.2 第二次区分表(綱目表) 赤字は10版での新表示. 見え消し表示は9版後抹消部分.  
以下同じ.

B7(II 4.1) G117-118 (2.3.6) H191(VI3) R101(2.3.6) Z53(III)

0 総記	35 社会	7 芸術・美術
01 図書館. 図書館情報学	36 社会	71 彫刻. オブジェ
02 図書. 書誌学	37 教育	72 絵画. 書. 書道
03 百科事典. 用語索引	38 風俗習慣	73 版画. 印章. 篆刻. 印譜
04 一般論文集. 一般講演集. 雑著	39 国防. 軍事	74 写真. 印刷
05 逐次刊行物. 一般年鑑		75 工芸
06 団体. 博物館	4 自然科学	76 音楽. 舞踊. バレエ
07 ジャーナリズム. 新聞	41 数学	77 演劇. 映画. 大衆芸能
08 叢書. 全集. 選集	42 物理学	78 スポーツ. 体育
09 特別コレクション	43 化学	79 諸芸. 娯楽
	44 天文学. 宇宙科学	
1 哲学	45 地球科学. 地学	8 言語
11 哲学各論	46 生物科学. 一般生物学	81 日本語
12 東洋思想	47 植物学	82 中国語. その他の東洋の諸言語
13 西洋哲学	48 動物学	83 英語
14 心理学. 道徳	49 医学. 薬学	84 ドイツ語. その他のゲルマン諸語
15 倫理学		85 フランス語. その他のプロバンス語
16 宗教	5 技術. 工学	86 スペイン語. ポルトガル語
17 神道	51 建設工学. 土木工学. <del>公害</del>	87 イタリア語. その他のロマンス諸語
18 仏教	52 建築学	88 ロシア語. その他のスラブ諸語
19 キリスト教. ユダヤ教	53 機械工学. 原子力工学	89 その他の諸言語
	54 電気工学. 電子工学	
2 歴史	55 海洋工学. 船舶工学. 兵器. 軍事	9 文学
21 日本史	工学	91 日本文学
22 アジア史. 東洋史	56 金属工学. 鉱山工学	92 中国文学. その他の東洋文学
23 ヨーロッパ史. 西洋史	57 化学工業	93 英米文学
24 アフリカ史	58 製造工業	94 ドイツ文学. その他のゲルマン文学
25 北アメリカ史	59 家政学. 生活科学	95 フランス文学. プロバンス文学
26 南アメリカ史		96 スペイン文学. ポルトガル文学
27 オセアニア史. 両極地方史	6 産業	97 イタリア文学. その他のロマンス文学
28 伝記	61 農業	98 ロシア・ソヴィエト文学. その他のスラブ文学
29 地理. 地誌. 紀行	62 園芸. 造園	99 その他の諸言語文学
	63 蚕糸業	101 に限定した注
3 社会科学	64 畜産業. 獣医学	×46 生物化学 →46 生物科学 (単純誤記)
3 政治	65 林業. 狩猟	
32 法律	66 水産業	
33 経済	67 商業	
34 統計	68 運輸. 交通. 観光事業	
	69 通信事業	

### 1.3 区分展開例（第一次区分，第二次区分，細目の抽出）

#### 1.3.1 B8（Ⅱ 分類配架と書架分類 4.1 体系と記号法）の図例

第一次区分 (類)		第二次区分 (綱)		第三次区分 (目)	
0	総記	5	技術 工学	54	電気工学
1	哲学	51	建設興業、土木工学	541	電気回路・計測・材料
2	歴史	52	建築学	542	電気機器
3	社会科学	53	機械工学、原子力工学	543	発電
4	自然科学	54	電気工学、電子工学	544	送電、変電、配電
5	技術 工学	55	海洋工学、船舶工学、兵器、軍事工学	545	電灯、照明、電熱
6	産業	56	金属工学、鉱山工学	546	(電気鉄道)
7	芸術、美術	57	化学工業	547	通信工学、電気通信
8	言語	58	製造工業	548	情報工学
9	文学	59	家政学、生活科学	549	電子工学

#### 1.3.2 H192（Ⅶ 分類配架 3（2） ②記号法 例示）

類（目）	綱（目）	要 目（目）	分目（小目）	厘目（小目）
0 総 記	00 総 記			
1 哲 学	01 図書館、 <b>図書館情報学</b>	011 図書館政策、行財政	1 <b>情報資源の 選択・構成</b>	1 } 2 } 3 } 空番
2 歴 史	02 図書、書誌学	012 図書館建築、設備	.2 受入と払出	
3 社会科学	03 百科事典	013 図書館管理	.3 目録法	4 } 5 一般分類表
4 自然科学	04 一般論文集、一般講演集	014 資料の収集、 <b>組織化・保存</b>	.4 <b>主題索引法(分類法 件名標目法[ほか])</b>	
5 技 術	05 逐次刊行物	015 図書館サービス・活動	.5 図書の配架法	6 専門分類表
6 産 業	06 団 体	016 各種の図書館	.6 資料保存、 蔵書管理	7 分類規程、分類作業
7 芸 術	07 ジャーナリズム、新聞	017 学校図書館	.7 非図書資料、 特殊資料	8 特殊資料の分類法
8 言 語	08 叢書、全集、選集	018 専門図書館	.8 政府刊行物	9 件名標目、シソー ラス、件名作業
9 文 学	09 貴重書郷土資料、その他	019 読書、読書法		

### 1.3.3 R 99 (第6章 2.3 日本十進分類法 (NDC) 新訂 10 版による分類作業)

「第1次区分 (類)」		「第2次区分 (綱)」		第3次区分 (目)」		「 細目 」	
0 総記	7 芸術	76 音楽		763.1			
1 哲学	71 彫刻	761 音楽の理論		763.2	弦楽器:ピアノ, ハープコード; グラビコード		
2 歴史	72 絵画	762 音楽史		763.3	ワグネル		
3 社会科学	73 版画	<b>763 楽器・器楽</b>		<b>763.4 弦楽器</b>	—	<b>763.42</b>	バイオリン
4 自然科学	74 写真	764 器楽の合奏		763.5	撥弦楽器		
5 技術	75 工芸	765 宗教音楽		763.6	吹奏楽器		
6 産業	<b>76 音楽</b>	766 劇音楽		763.7	木管楽器		
<b>7 芸術</b>	77 演劇	767 声楽		763.8	打楽器		
8 言語	78 スポーツ	768 邦楽		763.9	電子楽器		
9 文学	79 諸芸	769 舞踊					
10 グループ	100 グループ	1000 グループ		1000 以上			
(10)	(10×10)	(10×10×10)		(10×10×10・・・以下)			

図 6.11 NDC 新訂 10 版における区分展開例

#### 1.4 本表抜

B20-42. H204-253 詳細に過ぎるので省略

#### 1.5 本文内、論述箇所での表現の更新 : 「9 版」から「10 版」へ

B5-6, H187, R91,96, Z54-72 の各箇所において「9 版」との表現を「10 版」に変更

## 2. 補助表, 分類規程に関する変更

### 2.1 補助表 B9-13, H 193-198, R103

補助表 : その働き (NDC10 版 [別冊] 『本表・補助表編—一般補助表・相関索引』)

分類表には補助表システムがある。これを記号の形成にとり入れることにより分類表が膨大になることが防がれ、詳細な分類が可能となる。

十進記号表では、一つ一つの記号 (数字) が固有の意味を持つものではない。例えば日本は 1 で表すが、1 はすべて日本を表すわけではない。1 が使用される場所と、この 1 の前の記号 (数字) によって、1 が哲学、理論、日本、日本語、音韻・文字、日本文学、詩歌を表したりする。

NDC10 版には「一般補助表」と「固有補助表」の 2 種類がある。「一般補助表」には 4 区分 (形式区分、地理区分・海洋区分、言語区分) があり、「固有補助表」には 10 区分 (神道・仏教・キリスト教の共通細区分、日本各地域の時代区分、各国地理などの共通細区分、各種技術の細区分、建築図集、美術図集、言語共通区分、文学共通区分) が設定された。こうした補助表は、細目表だけでは主題を表現し尽くせない場合に用いることができる。

#### 【一般補助表】

NDC10 版の一般補助表は 4 種あり、細目表の全分野で適用可能なものと、特定の主題に限られるものがある。まで含むが、少なくとも一つの類で共通に使用可能か、部分的であっても二つ以上の類で使用される補助表である。

①形式区分〔共通細目〕(Form division. Common subdivision)

同一主題の下で、さらに形式によって細区分する場合に用いる。

- |  |                       |
|--|-----------------------|
| -01 理論. 哲学   |                       |
| -02 歴史的・地域的論述  |                       |
| *地理区分  | -028 多数人の伝記           |
| -03 参考図書〔レファレンスブック〕  | -033 辞典. 事典           |
| -04 論文集. 評論集. 講演集. 会議録   | -049 随筆. 雑記           |
| * (1)非体系的または非網羅的なものに、使用する；体系的または網羅的なものには-08を、逐次刊行されるものには-05を使用する                       |                       |
| (2)当該主題を他主題との関連から扱ったもの、または特定の概念・テーマから扱ったものに、使用する                                       |                       |
| -05 逐次刊行物：新聞, 雑誌, 紀要   | -059 年報. 年鑑. 年次統計. 曆書 |
| * 逐次刊行される参考図書には、-03を使用する；ただし、逐次刊行される論文集などには、この記号を使用する                                  |                       |
| -06 団体：学会, 協会, 会議  |                       |
| * 概要, 事業報告, 会員名簿など、個々の団体自身を扱ったものに、使用する；ただし、研究調査機関を扱ったものには-076を教育・養成機関を扱ったものには-077を使用する |                       |
| -07 研究法. 指導法. 教育   |                       |
| -08 叢書. 全集. 選集   |                       |
| * 体系的または網羅的なものに、使用する；非体系的または非網羅的なものには、-04を使用する * 単冊の全集などにも使用する                         |                       |

原則として、細目表のあらゆる分類項目について使用可能である。

〈使用法〉分類記号に直ちに付加する。

例) 演劇理論	770.1 (=77+-01)	農業年次統計	610.59 (=61+-059)
医学者列伝	490.28 (=49+-028)	英文学会	930.6 (=93+-06)
化学工業便覧	570.36 (=57+-036)	数学叢書	410.8 (=41+-08)

ただし、次のような例外的な使用法に注意する。

i) 以下の箇所で使用するときは、0を重ねて用いる。

a. 地域史および各国史の分類記号 (21/27)

例) アジア史辞典 220.033 中国歴史地図 222.0038

b. 地域史および各国史に属さない分類記号で、時代による区分が可能なもの (332, 362, 523, 702, 723, 762, 902ほか)

例) 経済史辞典 332.0033

c. 地理区分記号を付加して、2国間の関係を扱う分類記号 (319, 678.2)

例) 日本外交に関する書誌 319.10031

ii) -01 および-02 に関しては、細目表中に短縮する旨の指示がある箇所に限り0を省略。

例) 政治史 312 (310.2の位置に「[.2→312]」との指示がある)

iii) 同一内容の分類項目が表中に存在する場合は、そこに収める。

例) 貿易年次統計は、678.059ではなく678.9に収める。

iv) 形式区分の複合使用についての注意:形式区分の複合使用については禁止する根拠はないが、複合させる優先順位は一元的に規制できない。形式区分の列挙順序を内形式(叙述形式 例:-02 歴史的地理的叙述)、外形式(出版形式 例:-05 逐次刊行物)の区別に求め、内形式優先

とする考え方もあるが、厳密には決め難い。

## ②地理区分 [地域細目] (Geographic division. Area tables)

主題の取扱いが、特定の国または地域に限定された資料 (図書) は、必要があれば、国または地域を表す記号で細分する。

### i) 通常のカテゴリ記号の場合

- |   |
|---|
| -1 日本 (例 -13 関東地方, -136 東京都, -16 近畿地方, -165 奈良県, -19 九州地方, -197 鹿児島県) |
| -2 アジア・東洋   |
| -3 ヨーロッパ・西洋 (例 -33 イギリス, -35 フランス, -359 オランダ)                         |
| -4 アフリカ   |
| -5 北アメリカ  |
| -6 南アメリカ  |
| -7 オセアニア・両極地方   |

当該カテゴリ記号に-02 を介して付加する。地理記号は付・資料 1 参照。

例) 経済史辞典 332.0033

### ii) 注記「\*地理区分」を伴うカテゴリ記号の場合

地理区分を当該カテゴリ記号に直ちに付加する。地理記号は付・資料 1 参照。

例) 日本金融史 338.21 (=338.2+-1)

イギリス議会 314.33 (=314+33)

オランダ地誌 293.59 (=29+-359)

### iii) 注記「\*日本地方区分」を伴うカテゴリ記号の場合

当該カテゴリ記号に、この表 (付・資料 1) 中の日本の各地方・各都道府県の記号から 1 を省いたものを直ちに付加する。

例) 東京都の地方行政 318.236 (=318.2+-36)

奈良県の神社誌 175.965 (=175.9+-65)

鹿児島県の方言 818.97 (=818+-97)

## ③海洋区分 (Sea division)

指示のある項目の下で海洋を区分する。NDC9 版で補助表の一つとなった。

### i) 付加できるカテゴリ記号

注記「\*海洋区分」を伴うカテゴリ記号

### ii) 使用法

- ・カテゴリ記号に直ちに付加する。

例) 地中海海図 557.786

- ・地理区分とは併用できない。

- |         |         |              |
|---------|---------|--------------|
| -1 太平洋  | -4 インド洋 | -7 北極海 [北氷洋] |
| -2 北太平洋 | -5 大西洋  | -8 南極海 [南氷洋] |
| -3 南太平洋 | -6 地中海  |              |

## ④言語区分 (Language division)

資料の内容の表現に用いられた言語または研究対象となった言語によって、特定の主題の下で行う区分法である。次は主な言語区分である。

- |        |            |          |          |
|--------|------------|----------|----------|
| -1 日本語 | -3 英 (米) 語 | -5 フランス語 | -7 イタリア語 |
| -2 中国語 | -4 ドイツ語    | -6 スペイン語 | -8 ロシア語  |

〈適用法〉 8, 9, 03, 04, 05, 08, 670.9 の下で用いる.

例) 英語 8 + 3 → 83  
フランス語で書かれた百科事典 03 + 5 → 035  
アラビア文学 9 + 2976 (アラビア語) → 929.76

### 【固有補助表】

固有補助表は 10 種あり, 1 つの類またはその一部分に使用可能な補助表である.

これらは固有補助表の名でまとめ表示されたが, 旧版各部門下で既存なので黒く表した.

青字は, 『図書館雑誌』 2015 年 6 月号 p397 「NDC 新訂 10 版第 1 刷正誤表」での訂正

#### ①神道各教派の共通細区分表

-1 教義	-4 信仰・説教集. 霊験. 神佑	-7 布教. 伝道
-2 教史. 教祖. 伝記	-5 教会. 教団. 教職	
-3 教典	-6 祭祀. 行事	

〈適用法〉 178 の下で用いる.

例) 黒住宗忠伝 178.6 (黒住教) + 2 → 178.62

#### ②仏教各宗派の共通細区分表

-1 教義. 宗学	-4 法話. 語録. 説教集	-7 布教. 伝道
-2 宗史. 宗祖. 伝記	-5 寺院. 僧職. 宗規	
-3 宗典	-6 仏会. 行持作法. 法会	

〈適用法〉 188 の下で用いる.

例) 真宗聖典 188.7 (真宗) + 3 → 188.73

#### ③キリスト教各教派の共通細区分表

-1 教義. 信条	-4 信仰録. 説教集	-7 布教. 伝道
-2 教会史. 伝記	-5 教会. 聖職	
-3 聖典	-6 典礼. 儀式	

〈適用法〉 198 の下で用いる.

例) メソジスト説教集 198.7 (メソジスト教会) + 4 → 198.74

#### ④日本の各地域の歴史 (沖縄県を除く) における時代区分

-02 原始時代	-04 中世	-06 近代
-03 古代	-05 近世	

〈適用法〉 211/219 の下で用いる.

例) 古代の東京都 213.6 + 03 → 213.603

#### ⑤各国・各地域の地理, 地誌, 紀行における共通細区分表

-013 景観地理	-0189 地名	-091 探検記
-017 集落地理	-02 史跡. 名勝	-092 漂流記
-0173 都市地理	-087 写真集	-093 案内記
-0176 村落地理	-09 紀行	

〈適用法〉 291/297 の下で用いる.

例) ドイツ写真帖 293.4 + 087 → 293.4087

⑥各種の技術・工学における経済的、経営的観点の細区分表

510/580

-09 経済的・経営的観点	-092 歴史・事情 *地理区分	-095 経営・会計
-091 政策・行政・法令	-093 金融・市場・生産費	-096 労働

〈適用法〉 510/580 の下で用いる。

例) アメリカの自動車産業史 537 + 092 + 53 (アメリカ) → 537.09253

⑦様式別の建築における図集

-087 建築図集

〈適用法〉 521/523 の下で用いる。

例) 白鳳時代の建築図集 521.34 (日本建築白鳳時代) + 087 → 521.34087

⑧写真・印刷を除く各美術の図集に関する共通細区分表

-087 美術図集

〈適用法〉 700 の下で用いる。

例) 日本画名画集 721 (日本画) + 087 → 721.087

⑨言語共通区分 (Subdivision of individual languages)

-1 音声・音韻・文字	-4 語彙	-7 読本・解釈・会話
-2 語源・意味 [語義]	-5 文法・語法	-78 会話
-3 辞典	-6 文章・文体・作文	-8 方言・訛語

⑩文学共通区分 (Subdivision of individual literatures)

-1 詩歌 *詩劇 → -2	-4 評論・エッセイ・随筆
-18 児童詩・童謡	-5 日記・書簡・紀行
-2 戯曲 *劇詩 → -1	-6 記録・手記・ルポルタージュ
-28 児童劇・童話劇	-7 箴言・アフォリズム・寸言
-3 小説・物語	-8 作品集：全集，選集
-38 童話	-88 児童文学作品集：全集，選集

2.2 分類規程：一般分類規程 B16-19, H201-203, R106-108

NDC の分類規程 (Classification code) とは、NDC を適用するにあたって、従うべきルールや指針・原則である。分類基準とか分類コードとも呼ばれる。NDC のように分類項目があらかじめ列挙されている分類表の場合、用意されているどの分類項目に収めるのか、なぜその分類項目を選択するのかに関するルールや原則が明示されていることが、分類結果に一貫性を持たせるために不可欠となる。(以下、全面的に変更されているので、3.3 まで赤字表示を用いない)

分類規程には、各図書館がそれぞれの実情に応じて (例えば、蔵書数やその分野構成、図書館の目的あるいは利用者の利便性等を勘案して) 決められるものと各図書館に共通するものがある。ここでは、基本的に各図書館に共通し、NDC による分類記号の決定・付与作業に全般的に関係する分類規程について解説する。

NDC による分類作業の第一歩は、主題分析により把握した分類対象資料の要約主題を最も的確に示す分類項目を細目表から選び出し、その分類記号を付与することである。

複数の主題が含まれる「複数主題」の資料、あるいは主題同士が組み合わせられた複雑な主題で

ある「複合主題」や「混合主題」の資料、さらには「形式」が加味される資料のケースでは、それらの主題を構成する各要素を組み合わせ、正確に主題を表現する分類記号を作成することが望ましい。「分析合成型分類法」ならば、各要素を組み合わせる際の順序となる「引用順序」に関する分類規程により、首尾一貫した分類記号の作成が保証される。

しかし、「列挙型分類法」である NDC では、基本的に細目表中の分類項目の記号同士を組み合わせるのではなく、複雑な主題の組み合わせに合致する分類項目をあらかじめ用意しておくことで対応を図る。例えば、「複合主題」は多くの場合 NDC があらかじめ定めた「引用順序」に基づき、階層構造の形で細目表中に分類項目として列挙表示されている。

ところが、特に「混合主題」の場合には、個々の主題の分類項目の用意は大方なされているが、それらを組み合わせた複雑な主題に合致した分類項目は用意されていないことが多い。そこで、主題を構成する各要素に当てはまる分類項目の中からどの分類項目を優先するのかを首尾一貫して決定するための「優先順序」に関する分類規程が必要となる。

なお、NDC には一般補助表（4 表）と固有補助表（10 表）が用意されており、細目表にこれら補助表の記号を付加（番号構築）して「複合主題」を表現することも求められるので、首尾一貫した分類記号を作成するためには、それらを組み合わせる際の「引用順序」に関する分類規程も必要となる。さらに、NDC の細目表の一部には、組み合わせに関する特別の指示がなされている箇所がある。この場合には、細目表のその箇所での指示に従うことで一貫した分類記号の作成が可能となる。

## 1) 主題の観点

### ① 主題の観点による分類

NDC は観点分類法であるので、まず主題の観点（学問分野）を明確にし、その観点の下に用意された主題に分類する。

### ② 複数の観点からみた主題

主題を著者がどんな観点に立って見ているかによって分類するのであるが、その観点が 2 以上（学際的著作）となったとき、主になる観点が明らかならば、その観点到分類する。例えば、米という主題を生産から見た米（稲作 616.2）、流通から見た米（611.33）、調理から見た米（596.3）という複数の観点から取り扱った資料の場合はどうするか。その中に主になる観点が一つ明らかならば、その観点の下に分類する。

しかし、主になる観点が不明なときは、その主題にとって最も基本となる分類項目、より基礎的、あるいは目的を示す観点の下に分類する。例えば、上記の資料がこのケースに当てはまる場合には、より基礎的な観点である生産から見た米（稲作 616.2）を選択する。

なお、総記（0 類）の分類記号を選択する可能性も見落してはならない。

観点が 2 以上の場合は、書誌分類記号として、それぞれの観点の下の分類記号を分類重出することを考えたい。

## 2) 主題と形式概念の区別

資料はまず主題によって分類する。次いで必要があれば、主題を表す叙述および編集・出版形式（-01/08）によって細分する。主題による分類は、細目表よりその主題を最も詳細・的確に表す分類項目を選択し、その分類記号を付与する。その後形式を必要に応じて一般補助表 I（形式区分）から選択し、主題の分類記号に付加する。

例：教育名著叢書 教育叢書（370.8）とし。一般叢書（080）や社会科学叢書（308）としない。ただし、総記（0 類）内の形式類（03/05,08）、文学作品（9 類）は言語区分のうえ、文学共通区分という文学形式、芸術作品（7 類）は芸術の表現形式と、それぞれ「形式」によって分類する。

## 3) 原著作とその関連著作

#### ① 原則

特定著作の翻訳、評釈、校注、批評、研究、解説、辞典、索引などは、原著の分類される分類項目に分類する。

例：やまとうた一古今和歌集の言語ゲーム（小松英雄）→ 古今和歌集（911.1351）；  
近松語彙（上田万年・樋口慶千代）→ 浄瑠璃（912.4）。

#### ② 語学学習書

語学（日本語古典を含む）の学習を主目的とした対訳書、注解書の類は、主題または文学形式にかかわらず、学習される言語の解釈、読本として分類する。

例：若草物語（オルコット原作 荻田庄五郎訳注）→ 英語読本（837.7）

#### ③ 翻案、脚色

原作の分類項目とは独立して、翻案作家、脚色家の作品として分類する。

例：戯曲・赤と黒（スタンダール原作 大岡昇平脚色）：→ 近代日本の戯曲（912.6）

#### ④ 特定意図による抄録

例：回想の織田信長——フロイス「日本史」より（松田毅一、川崎桃太編訳）→  
個人の伝記（289）

原著作に分類される資料の場合は、関連著作の分類記号を、関連著作に分類される資料の場合には、原著作の分類記号を必要に応じて書誌分類記号として重出も考えたい。

### 4) 複数主題

1つの著作で、複数の主題を取り扱っている場合、そのうち1主題が特に中心として取り扱われている場合は、中心となる主題の下に分類する。

例：胃癌の話 付：食道癌と腸癌 → 胃癌（493.455）

しかし、2または3個の主題を取り扱っていて、どの主題も特に中心となる主題がない場合は、最初の主題に分類する。

例：桃・栗・柿の園芸技術 → 桃（625.51）

もし4以上の主題を取り扱い、特に中心となる主題がない場合は、それらを含む上位の主題の下に分類する。

例：アルミニウム・マグネシウム・チタニウム・ベリリウムとその合金  
上記4種の金属を含む上位の主題、軽金属（565.5）に分類する。

この取り扱いは合刻書、合綴書についても適用する。

ただし、特に中心となる主題がない2または3個の主題を取り扱っている場合でも、それらが、ある主題を構成する主要な下位区分から成る資料の場合には、上位の主題の分類記号を付与する。

例えば、動物誌（482）と植物誌（472）を対等に取り扱った資料の場合、最初の主題である動物誌の分類記号を付与するのではなく、その両者を含む上位の主題である生物誌（462）の分類記号を付与する（生物誌の主要な下位区分は、動物誌と植物誌の2つのみである）。

書誌分類記号としては、複数の主題それぞれに対応する複数の分類記号を必要に応じて分類重出することが望ましい。

### 5) 主題と主題との関連

通常は独立している主題同士が相互に結びついた主題の場合は、次のとおりに取り扱う。

#### ① 影響関係

1つの主題が他の主題に影響を及ぼした場合は、原則として影響を受けた側に分類する。

例：浮世絵のフランス絵画への影響 → フランス絵画（723.35）。

しかし、個人の思想・業績が多数人に及ぼした影響については、個人の側に分類する。

例：白楽天の日本文学への影響 → 唐詩（921.43）

## ② 因果関係

主題間の因果関係を取り扱ったものは、原因ではなく、結果のほうに分類する。

例：地震と鉄道（日本鉄道施設協会）→鉄道建設（516）

## ③ 概念の上下関係

上位概念の主題と下位概念の主題とを扱った図書は、上位の主題に分類する。

例：原子力・原子炉・核燃料→原子力工学（539）

ただし、上位概念が漠然としているとき、下位概念により分類する。

例：禅と日本文化（鈴木大拙）→禅（188.8）

## ④ 比較対照

比較の尺度として使われている側でなく、その尺度によって比較されている対象の側（著者の重点）に分類する。

例：イギリス人と日本人（ピーター・ミワード）→日本人（302.1）

## ⑤ 主題と材料

特定の主題を説明するために、材料として取り扱われたものは、その材料のいかんを問わず、説明している特定主題によって分類する。

例：ショウジョウバエの遺伝と実験（駒井卓）→実験遺伝学（467.2）

## ⑥ 理論と応用

a. 特定主題の理論と応用を扱ったものは、応用に分類する。

例：液晶とディスプレイ応用の基礎（吉野勝美・尾崎雅則）→電子装置の応用（549.9）

b. 特定理論の特定主題への応用はその応用に分類する。

例：推計学による寿命実験と推定法（田口玄一）→生命表（339.431）

多数の主題に応用された場合で、応用部門を総合的に収める分類項目があれば、そこに収める。

例：応用物理データブック（応用物理学会）→応用物理学（501.2）

ただし、適当な分類項目がない場合は、理論の場所に収める。

例：応用微生物学（村尾沢夫，荒井基夫共編）→微生物学（465）

## ⑦ 主題と目的

特定の目的のために（特定主題分野の利用者のみを対象として）著わされた資料は、原則としてその目的とした主題の下に分類する。

例：国語教育のための基本語彙→国語教育（375.8）

介護のための心理学入門（岸見一郎）→老人福祉（369.26）

ただし、基本（重点がおかれる）となる主題に関する一般的概論、つまり基本となる主題の解説（入門書的性格）であることも多い。この場合には、目的とした主題ではなく、基本となる主題の下に分類する。

例：介護のための医学知識（日本訪問看護財団）→医学（490）

書誌分類記号としては関係している主題それぞれの分類重出が望ましい。

## 6) 新主題

最も密接な関係があると思われる主題の分類項目、または階層の上位にある包括的クラスの分類項目に分類する。あるいは新しい分類項目を設けて分類する。

## 3. 『10 版』の使用法：NDC の一般的な適用＝分類作業<抄> B13-16, H199-201, R103-106

「各類概説」の改訂、形式区分、地理区分など補助表の使用基準の明確化、注記の定型化や補強を行うとともに、関連索引の採録語を見直した。またこれまで分散していた使い方を説明し、分類作業を行うに必要な最低限の「使用法」を提示する。

「使用法」は、まず一般的な NDC の適用にあたって留意すべき事柄として、第 I 部において、書誌データの作成における分類作業という観点から、主題分析の方法、分類規程、番号構築（ナンバービルディング）、相関索引の活用法について解説している。第 II 部では、各館の分類基準の整備、館種別の適用、別法の選択、別置など具体的な措置について解説した（第 II 部省略）。

### 3.1 書誌データの作成と分類作業

分類作業とは、対象資料の主題分析により把握した主題を最も的確に示す分類記号を付与することである。複雑な主題の場合は、その主題を十分に表現するために複数の主題要素各々に対応した分類記号の組み合わせが必要となるのが一般的である。しかし、列挙型分類法である NDC では、細目表から対象資料の主題を代表する一つの分類記号を選択することが基本となる。したがって、作業指針となる「分類規程」に留意しなければならない。

個別資料は複数配架することはできないので、「分類規程」によって選択した分類記号を使用する。ただし、複雑な主題に関しては、書誌分類（分類目録）において、複数の分類記号を付与（分類重出）することが望ましい。

### 3.2 主題分析

主題とは、資料の中心的あるいは主要な内容のことである。例えば、ある資料が「公共図書館の障害者に対するサービスについて記された」と把握した場合、「公共図書館」「サービス」「障害者」に分析できる。主題分析とは、個々の資料の内容を分析し、主題を突き止め、その主題を構成する概念を確認し、概念間の関係を明らかにすることである。上記の例の場合では、図書館情報学という学問分野の文脈において、まず図書館の種類としての「公共図書館」、次に業務としての「サービス」、さらにサービス対象としての「障害者」という主題の構成要素を確認した後に、その構成要素を語と語の結びつきに注意して、その関係を明確にすることである。

#### 3.2.1 主題分析の方法（要約法と網羅的索引法）

主題分析には要約法と網羅的索引法の二つの方法があり、従来図書館の分類では要約法が採用されてきた。要約法とは、資料を包括的にみてどのような主題を持っているのかを要約して、それに該当する分類記号を与える方法である。

一方、網羅的索引法とは、要約法とは異なり、資料を部分的に分析し、資料の副次的、周辺の主題まで網羅的に、分類記号を付与する方法である。上記の「公共図書館の障害者サービス」という主題の資料の場合、副次的主題として図書館建築・設備や社会教育および社会福祉、さらには点字や手話に関する概念までも扱っているならば、これらの主題に対しても分類記号を付与する。書誌データにおいては、要約法だけでは十分に主題を表現できない場合、網羅的索引法にも留意し、積極的に分類重出を心がける必要がある。

#### 3.2.2 主題分析のための情報源（主題内容の把握）

資料の主題や内容を把握するためには、その資料を読むことが最も適切で正確な方法かもしれないが、分類作業ではできるだけ効率化を図り、以下のような方法で進めることが望ましい。

1) タイトルを確認する。

文学作品を除くと、資料のタイトルは主題内容を表現していることが多い。タイトルから内容を把握する。例えば、『現代の政治学』『国家理論』『政治学原論序説』『はじめて学ぶ政治学』『民主主義の政治学』などは〈311 政治学〉を示唆しているが、『国家の解剖学』になると、主題が政治学かどうかわからない。サブタイトルなどや著者も考えに入れる。

2) 序文・目次・後書き・解説を読む。

3) 参考資料を繙く：百科事典や専門辞典などの参考図書などを参照する。

4) 通読する：文の一部を拾い読みし、序論や結論に注目し主題を把握する。

5) 参照、引用文献に指示されている文献を読んでみる：必要であれば

6) OPAC等の書誌情報データベースで類書を検索して過去の事例を参考にする。

7) 周辺に専門的知識を有する人がいれば、相談する。

上記のようなさまざまな手段を尽くしても、主題に対する十分な理解が得られない場合、周辺に専門的知識を有する人がいれば相談するとよい。ただし示唆を得るにとどめるとよい。

### 3.2.3 主題の構造

#### 3.2.3.1 ファセットとフォーカス

主題を分析する際に、その主題が単一の概念で構成されているのか、それとも複数の概念で構成されているのか、またそれがどのような組み合わせになっているのかを考えてみると、主題の内容が明確になり理解しやすくなる。主題の構造を把握する一法として、ファセット (facet) や単一概念 (フォーカス : focus) という考え方が導入されている。

単一概念 (フォーカス) の集合のことをファセットという。分類表に即していえば、各主題分野 (主類) がいくつかの特性 (区分原理) によって区分されているとすると、一つの特性を用いて区分して得られる下位クラス (フォーカス) の総体を面 (ファセット) とする。

#### 3.2.3.2 主題の種類

##### 1) 基礎主題

確立した独立の体系的な知識分野である学問分野自体が主題となる。

例えば、『法律学』という資料は、法律学とはどのような学問 (分野) であるかを概説している。したがって、この場合は法律学という学問分野自体が主題となる。

##### 2) 単一主題

基礎主題とその学問分野における一種類のファセット中のフォーカスで構成される主題。

例えば、『商法』という資料は、法律学—法律の種類 (商法) と主題分析される、これは、法律学のもつ各種ファセットの中の一ファセットである「法律の種類」を構成するフォーカスの一つである「商法」という単一主題である。

##### 3) 複合主題

基礎主題とその学問分野における二種類以上のファセット中の各フォーカスで構成される主題。

例えば、『日本の商法』という資料は、法律学—法律の種類 (商法) —地域・国 (日本) と主題分析される。これは、法律学のもつ各種ファセットの中の二種類のファセット (法律の種類および地域・国) 中の各フォーカス (商法, 日本) から成る複合主題である。

##### 4) 混合主題 (相関係)

通常は独立している主題が、それぞれの性質を保持しながら相互に結びついた主題。結びついた主題構成要素を「相」と呼び、主題間の関係を「相関係」と呼ぶ。異なるクラスや学問分野の主題同士の結びつき、同一分野、同一ファセットの中での結びつき等がある。

代表的な相関係には:影響関係, 因果関係, 概念の上下関係, 比較対照, 主題と材料, 理論と応用, 偏向関係 3 などがある。(具体例は, 2.1 の 5)主題と主題との関連を参照)

##### 5) 複数主題

独立した主題同士が、一資料中で相互作用なしに並列するもの。例えば『コマツナ・シュンギク・キャベツ・ハクサイ』という資料は、農業—園芸—疏菜園芸—葉菜類 (626.5) の下にあるコマツナ (626.51), シュンギク (626.56), キャベツ (626.52), ハクサイ (626.51) という四つの主題それぞれを並立する関係で取り扱っている。こうした状態が複数主題。

#### 3.2.3.3 形式

NDC では、①編集, 出版の形式, ②理論的・哲学的論述, 歴史的・地域的論述あるいは主題に関する調査研究法・指導法等が, 形式概念として一般補助表の形式区分に用意されている。①を外形形式, ②を内形式と呼ぶことがある。

### 3.3 記号への変換

主題分析により資料の主題内容が把握できたなら、その主題が分類表のどの分類項目にあては

まるかを考える。分類作業をする人は分類表に慣れ親しむことが大切である。まず、要約表から分類体系の概要を把握しておく。初心者は、自分のよくわからない領域の主題にぶつかると、相関索引を引く。それは誤りではない。しかしそこで見つけた分類記号をいきなり採択するのは性急というものである。細目表に戻って、前後の分類項目を確認したり、注記や参照にも目をおし、当該分類記号が適切かどうかを確認する必要がある。

分類記号の決定、付与にあたって留意すべき点は以下のとおりである。

(1) 利用者の利便性を考慮する。

利用者の利便性を考慮し、最も利用される位置に資料进行分类する。NDC は特定の主題が観点によって各分野に分かれているが、専門図書館であれば、特定の主題を最も利用される分野に集中することもある。これは便法であり、全体の体系を崩すところまで、乱用してはならない。

(2) 資料の内容に即した最も詳しい記号を付与する。

分類表に用意された最も詳しい分類記号を付与することを心がける。主題分析を精緻に行い、主題の特定化を図るとともに、それに該当する最も詳しい分類記号を付与する。

(3) 分類の一貫性を保つことに留意する。

同一主題に対して常に一定の分類記号が付与されるよう、後述するような各種の分類規程を整備し、その方針や基準に従い、分類作業を進めることが重要である。

## 4. 索引及びその抽出例に関する変更

### 4.1 相関索引 (旧版の約 29,500 件から約 33,400 件に)

特定の主題ないし事項について、その体系的位置を速やかに知るための索引で、資料进行分类する場合に活用する。音順に配列して、それぞれに対応する分類記号を示した。それぞれの索引語について、さまざまな観点と関連性を示す相関索引である。ただし、自館の収集傾向や書架分類の独自方式、およびその精粗などで、NDC10 版と一致しない部分がある。

### 4.2 本文上での例示

#### 4.2.1 B13 (II 4 日本十進分類法 4.3 相関索引)

古典主義 (英米文学)	930.26
(絵画)	723.05
(建築)	523.053
(ドイツ文学)	940.26
(美術)	702.26
(フランス文学)	950.25
(文学)	902.26

#### 4.2.2 R106 (第 6 章 3.3)

【ヒ】

火 (自然崇拜)	163.1	微圧計 (気象学)	451.37	ピアノ四重奏	764.24
比	411.2	ピアニスト	762.8	ピアノ三重奏	764.23
美	701	ピアノ	763.2	ピアノホール	673.98
ピアノ基礎 (建築)	<del>524.3</del>	ピアノ協奏曲	764.392		
ピアノ基礎 (建築)	524.3	ピアノ五重奏	764.25		

### 4.3 転写相関索引部分 (9 版のそれから 10 版のそれへ) の更新

p16 表、B144 (付・資料 1 「コテン」を含む部分) 事例を 10 版の当箇所に変更

p17 表、H282 (付・資料 3 「トショ」を含む部分) を 10 版の当箇所に変更

骨膜炎	493.6	小鳥 (家禽)	646.8	呉服 (織物工業)	586.77
骨油	576.185	(獣医学)	646.86	呉服店	673.7
固定化酵素 (化学工業)	579.97	ことわざ (民俗)	388.8	古物商	673.7
固定資産 (会計学)	336.94	(倫理)	159.8	コプト教会	198.17
固定資産税	349.55	こなじらみ	486.36	コプト語	894.2
固定資本	331.82	後奈良天皇 (日本史)	210.47	コプト美術	702.03
コーディネーション	593.8	粉料理	596.3	コブラ (動物学)	487.94
固定費 (財務管理)	336.85	粉類 (農産加工)	619.3	古プロシア語	889.9
固定無線 (無線工学)	547.63	湖南	*161	コプロライト	457.3
コーティング (塗料)	576.89	湖南語	828.8	古墳 (考古学)	202.5
コーティング (情報学)	007.64	湖南事件 (日本史)	210.64	(日本史)	210.32
鼓笛隊	764.69	湖南省	*2226	胡粉 (絵画)	724.1
古典学派 (経済学)	331.4	湖南地方 (朝鮮)	*217	古文辞学 (日本思想)	121.56
古典主義 (英米文学)	930.26	湖南方言	828.8	古墳時代 (日本史)	210.32
(絵画)	723.05	小荷物 (鉄道運輸)	686.56	五分律	183.85
(建築)	523.053	コニャック (酒類工業)	588.57	個別化教育	371.5
(ドイツ文学)	940.26	五人組 (法制史)	322.15	個別指導	375.23
(美術)	702.06	コネティカット州	*5316	古方 (医学)	490.9
(フランス文学)	950.25	コノドント	457.3	語法	805
(文学)	902.06	古ノルド語	849.5	ごぼう (植物学)	479.995
古典派 (音楽)	762.05	五倍子 (林産物)	657.83	(蔬菜園芸)	626.47
御殿場	*154	琥珀 (鉱山工学)	569.9	御坊	*166
古典復興 (建築)	523.053	(鉱物学)	459.68	湖北省	*2225
コート (和裁)	593.17	琥珀酸 (化学)	437.5	古本説話集 [書名]	913.37
琴	768.12	(工業)	574.85	こま (玩具)	759
五島	*193	コーバス言語学	801.019	(民俗)	384.55
小道具 (演劇)	771.5	小咄 (江戸文学)	913.59	ごま (作物栽培)	617.9
古動物学	457.8	後花園天皇 (日本史)	210.46	(植物学)	479.967
孤島問題	318.6	小林	*196	護摩	188.56
ゴート語	849.99	小林一茶 (日本文学)	911.35	こま遊び	798
コートジボワール	*4435	コパール	578.32	ごま油	576.174
ことば遊び	807.9	コバルト (化学)	436.82	狛犬 (神道)	175.5
後鳥羽天皇 (日本史)	210.42	(金属工学)	565.62	狛江	*1365
コードブック		コバルト鉱	562.6	ゴマ科	479.967
(電気通信事業)	694.4	古版本 (書誌学)	022.3	駒ヶ根	*152
子供会	379.31	古版本目録	026.3	小牧	*155
子供銀行	338.71	コーヒー (作物栽培)	617.3	鼓膜 (耳科学)	496.6
子供室	527.5	(食品)	596.7	小松	*143
子供図書館	016.28	(植物学)	479.97	小松島	*181
子供番組	699.6	(農産加工)	619.89	こまつな (蔬菜園芸)	626.51
子供服 (家政学)	593.36	(民俗)	383.889	こまどり (家禽)	646.8
(製造工業)	589.216	コピー機 (製造工業)	582.3	(動物学)	488.99
(風俗史)	383.16	古美術商	706.7	ゴマノハグサ科	479.963
子供部屋 (育児)	599.1	古筆切	728.8	狛笛	768.16
(住宅建築)	527.5	コピーライター	674.35	ごまめ (水産加工)	667.2
ゴトランド記 (地史学)	456.34	護符	163.4	小間物 (民俗)	383.5

土壌 (農業基礎学)	613.5	図書館職員倫理	013.1	土性 (土壌学)	613.57
(林業)	653.1	図書館資料	014.1	土星	445.6
土壌安定化 (土木工学)	511.36	図書館資料収集	014.1	土性図	613.59
土壌汚染 (公害)	519.5	図書館税	011.4	土性調査	613.58
土壌化学	613.53	図書館政策	011	土性力学	511.3
土壌学	613.5	図書館製本	014.66	土石採取業	569
土壌気候	613.55	図書館設備	012.8	土石流	519.9
土壌形態学	613.54	図書館相互協力	011.3	渡船 (造船学)	556.74
図書受入法	014.2	図書館相互貸借	015.13	塗装 (化学工業)	576.89
土壌細菌学	613.56	図書館組織	013.2	塗装工事 (建築)	525.58
土壌試験	613.58	図書館調査	012.9	土蔵造 (建築)	524.59
土壌侵食	613.51	図書館統計	013.5	塗装補助材料	576.87
土壌生成	613.54	図書館ネットワークシ		土俗学	380.1
土壌動物	481.76	ステム	011.3	戸田	*134
土壌微生物学	613.56	図書館の自由	010.1	土台 (木構造)	524.53
土壌物理学	613.52	図書館備品	012.9	戸棚 (家具工業)	583.77
土壌分析	613.58	図書館評価法	013.5	(家政学)	597.5
土壌分類	613.57	図書館分館制	011.38	土地 (衛生学)	498.41
図書解題	025	図書館法	011.2	(経済学)	334.6
図書学	020	図書館奉仕	015	(農業経済)	611.2
図書貸出	015.1	図書館網	011.3	栃尾	*141
図書館	010	図書館用品		トーチカ	559.9
図書館員	013.1	(図書館管理)	013.6	土地改良 (農業工学)	614.2
図書館会計	013.4	(図書館設備)	012.9	土地改良区	611.17
図書館家具	012.9	図書館予算	013.4	土地家屋台帳法	324.86
図書館学	010	図書館利用教育	015.23	土地家屋調査士	673.99
図書館学教育	010.7	図書館利用法	015	(民法)	324.86
図書館活動	015	図書館論	010.1	土地価格	334.6
図書館管理	013	図書記号法	014.55	トチカガミ科	479.337
図書館機械化	013.8	図書形態	022.5	栃木	*132
図書館基準	011.2	図書材料	022.6	栃木県	*132
図書館教育	010.7	図書史	020.2	土地行政	334.6
(学校教育)	375.18	図書収集	024.9	屠畜	648.22
図書館協議会	013.3	図書整理法	014	土地区画整理	
図書館行政	011.1	図書選択法	014.1	(都市計画)	518.86
図書館経営	013	図書展示目録	027.7	屠畜場	648.22
図書館計画	011.3	図書登録法	014.2	土地経済	334.6
図書館建築	012	図書配架法	014.5	土地収用	323.97
図書館広報活動	013.7	図書販売	024	土地収用法	323.97
図書館コンソーシアム	011.3	図書付属品	022.68	土地所有権 (民法)	324.23
図書館財政	011.4	図書分類	014.4	土地政策 (経済学)	334.6
図書館サービス	015	図書分類法	014.4	(農業経済)	611.23
図書館施設	012	図書目録法	014.3	土地税制	345.43
図書館情報学	010	兎唇	494.73	土地制度 (農業経済)	611.2
図書館職員	013.1	鳥栖	*192	土地制度史	611.22
図書館職員養成	010.7	トースター (電気工学)	545.88	土地台帳 (財政)	345.43

## むすび：変更事項の確認を兼ねて

本稿は、10版で生じた変更事項を自己の関係テキストに投影することを本務とした。ただ事実を記すことを通じて、目的外ながら評価、批判に至ったところがある。

### .1 出版形態

.1.1 B5 版黒表紙，二冊本：2 冊本，A5 版，茶表紙から変更した。

.1.2 二冊本の構造：赤で示した部分，青で示した部分に、上下巻間で移動が生じた。

上巻	下巻
↓ 9 版 “本表編（含む「解説」=使用法，分類規程）”	相関索引・一般補助表編 “
10 版 “本表・補助表編”	相関索引・使用法編（分類規程）”

本表と補助表を同一冊にまとめたことは構造的な是正と評しうる。

### .2 内容構造

#### .2.1 本表

- .1 別法化：[546 電気鉄道] \*鉄道運輸→686；鉄道車両→536；鉄道土木・設備→516.  
評：この分野内での別法化ゆえ，「\*」後に示す分類項目・記号は 5 類のものを先行すべき。
- .2 解釈の変更：「例 210.27 登呂遺跡」削除。「2.3 相関索引」参照。理由説明必要。
- .3 <中間見出し>の多用（充実）

#### .2.2 補助表

- .1 上巻（本表・補助表編）へ移動した。
- .2 補助表を、一般補助表と固有補助表で構成した
- .3 一般補助表で形式区分に補記した[共通細目]，地理区分に補記した[地域細目]を外した。
- .4 一般補助表内にあった言語共通区分と文学共通区分を固有補助表に枠組み変更した。
- .5 固有補助表内の「文学共通区分」に「文学形式区分」との表現を併用している。
- .6 固有補助表内の 5)「各国・各地域の地理，地誌，地誌，紀行における共通細区分表」と 290.1～290.18 として記された細目の表示の間に一部不一致を生じている。

#### .2.3 相関索引

BSH4 版，NDLSH（国立国会図書館典拠データ検索・提供システム）の件名項目を導入した。「登呂遺跡」を 210.27 へ索引していたが，誤植訂正（3 参照）で 215.4 に案内（2.1.3 参照）

.2.4 使用法：下巻（相関索引・使用法編）に下記の説明箇所を新設した。

- .1 主題分析，主題構造を論述。理論的で評価できるが、実用との関係性は今般不明。
- .2 「分類規程」を収載 ←9 版での「解説」（上巻）の位置から移動した。

.2.5 用語解説：下巻に新設。評価できる。

.2.6 事項索引：下巻に新設。評価できる。

### .3 誤植訂正

『図書館雑誌』2015 年 6 月号，p.397 に掲げられた。大半は，分類項目を形成する漢字の訂正，表現を助ける符号（句読点）の訂正が主である。これらは大きな問題でないようだが，分類記号の訂正は多少深刻である。特に相関索引の所在指示としての分類記号の訂正は困りものである。

引用ではあるが NDC 新訂 10 版の転写をお許しいただいた JLA に感謝したい。

（しほた つとむ 桃山学院大学）

（なかむら よしのぶ 神戸松陰女子学院大学）

（やまだ みゆき 兵庫県立大学）

（いしい りの 大学図書館員）

（そのだ しゅんすけ 津島市立図書館）

（2015年10月27日受付）

（2015年11月23日受理）